

# こあい本

『一寸先の闇』 —澤村伊智怪談掌編集—  
澤村伊智／著 宝島社



「どパァン！」みなさんはこれが何の音かわかるだろうか？  
たった数ページで恐怖に引き込まれてしまう。  
とてもおそろしいのになぜかまた読みたくなってしまふ…恐怖を覗くショートショート集。  
文章も難しくないの、本が苦手な方も読みやすい一冊。

## 『人間椅子』

江戸川乱歩／著 ホノジロトヲジ／絵 立東舎



巷で女流作家として名が売れている佳子。  
朝、夫を見送ってから、書斎にこもり、椅子に腰かけファンから送られてきた手紙に目を通し、それから執筆にとりかかる事が日課となっている。  
ところがある日彼女のもとに届いた手紙の中に、奇妙な告白文が入った封筒がまざっており…  
作品からインスピレーションを得て描かれたイラストにも注目。

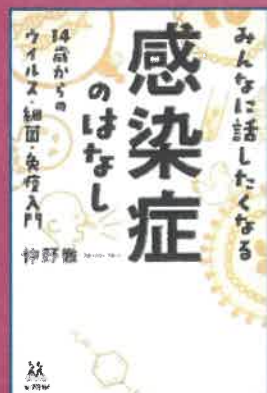
## 『魔女の秘薬事典』

—忌々しくも美しい禁断のハーブ—  
エリカ・ライス／著 ダコスタ吉村花子／訳  
グラフィック社



マンドレイク、ベラドンナ、トリカブト…。  
中世では魔女が調合に使用していたと思われていた、使い方一つで毒にも薬にもなるような数々のハーブ。そんな草花の毒としての効果だけではなく、薬効や伝説まで教えてくれる、見た目も中身もまるで本当に魔女の本棚に並んでいそうな一冊です。

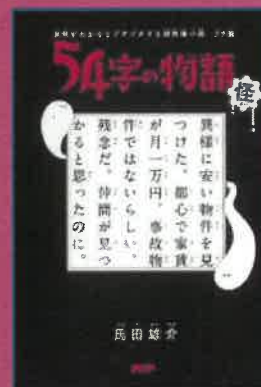
『みんなに話したくなる感染症のはなし』  
—14歳からのウイルス・細菌・免疫入門—  
仲野徹／著 河出書房新社



2019年に新型コロナウイルスが発生した時、PCR検査、抗体検査といった言葉をニュースで聞いても、「そもそもウイルスって何だ？」と、ピンとこなかった人も多かったはず。初めて見る言葉、知らない言葉、それらは単に今まで知る機会がなかっただけで、何も難しいものではありません。大切なのは正しい情報を得ること。そして自分の頭で考えて判断すること。読み終わったら絶対に賢くなっている一冊です。

## 『54字の物語 怪』

—意味がわかるとゾクゾクする超短編小説—  
ゾク編—  
氏田雄介／作・絵 PHP 研究所



全ての話が54字で完結する、SNSで大人気の超短編小説。各ストーリーの次のページに解説がついているので、本当の意味がわかると…背すじがゾクっとすること間違いなし。さくっと読めるので寝る前に読むのもオススメ。でももしかしたら、夜眠れなくなってしまうかも？

## 『毒持ちさん』

—迅社



毒を持つ動物というと、どんな生き物を思い浮かべますか？毒ヘビ？ハチ？  
実はネズミやサル、トリの仲間にも毒を持つ種類が存在するのです。  
この本ではそういった普段慣れ親しんでいる動物以外にも、様々な有毒生物を紹介しています。  
巻末には、襲われた時の対処方法も載っていますので、ぜひ最後まで読んでみてください。